



「向こう三軒両隣」

ある日の夕方、ふれあい文化センターの前を、自転車を押しながら汗だくになって何度も往復している高齢のおばあちゃんがいきました。当センターの職員が声をかけたところ、「ここはどこですか？ー時間くらいこの辺ば歩きよるけど、自分の家に帰りきらんごつなつたとです。」との答えが返ってきました。

これは大変だと感じた職員は、おばあちゃんに質問をしました。

「お名前は？」↓「○○○○です。」

「ご年齢は？」↓「85歳です。」

「ご住所は？」↓「○○町です。」

「○○町の何番地ですか？」↓「862-○○○○です。」とのこと。

職員は、すぐに決断し、館長に伝えました。「館長！このおばあちゃんを家まで送り届けていいですか？」

館長は「もちろん。私も一緒に行きます。」と迷うことなく、おばあちゃんと自転車と一緒に○○町へ向かいました。

ふれあい文化センターからキロ程離れた○○町の近くまで来たところで、おばあちゃんが、「この辺から分かります。」と言われ、おばあちゃんの道案内で無事に自宅に送り届けることができました。

おばあちゃんは、息子さんと二人暮らしで、息子は、仕事で夜8時頃しか帰ってこないとのこと。息子さんの携帯番号を聞き、電話して事情を説明し、センターに戻りました。

おばあちゃんは、玄関前で何度も何度も頭を下げられ、「ありがとうございます。本当に助かりました。」と言って、職員と館長をずっと見送ってくれました。

翌日、息子さんがわざわざお礼を言いに来ました。お礼の言葉にこちらが逆に感謝しましたが、息子さんから「母が家に帰れなくなったのは初めてですが、今日は、そのことを覚えていませんでした。」とおっしゃられたのが気になりました。

高齢化が進む日本において、このような境遇のご家庭は決して少なくないと思われます。今後の医療の発展やAIを活用した介護支援の充実を願う一方で、人間関係の希薄化が深刻化している現代社会において、「向こう三軒両隣」の精神は、コミュニティの形成や防災の観点からも、地域の中で大切に守り続けなければならないものだと思います。

「向こう三軒両隣」の精神を取り入れた地域活動を活性化させることで、より豊かで安心できる生活が実現できるのではないのでしょうか。

（熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和6年度11月号より）

短いメッセージ みんな 違う色を持っていて 色と色が 混ざり合って 新しい色が できるんだね

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 白川中学校 1年 本田 莉蘭さん(令和5年度の作品より)